

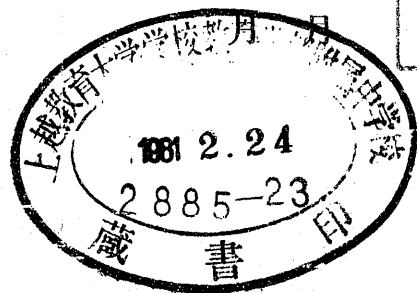
第二三部

高田藩記錄

自
永
五
年
至
十
二

富澤氏藏書

部 門	主 要 資 料
分 類	017
冊 數	1
全 部	23
10790	



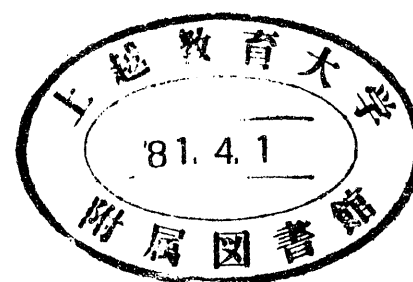
御在府

嘉永五年壬子年

御用番

從十一月
至十二月

島居内宿
大直安十郎



壬子十一月中

朔日

十三日

初五日 丙子 晴 風和 雲少 日色清朗 草木萌動 鳥鳴林樾 蟬鳴樹梢 蛙鳴池畔 蟲鳴草間 農人鋤地 牧人放牛 漁人撒網 舟子行舟 市人交易 婦人織布 兒童嬉遊 老人安臥 萬物咸熙 太平之象也

義父の忠告を聞きしに
入道殿の御方へ参上

南有方氏之函也

[illegible]

十

少川陳西亭

東嶽山
藏書後錄

修竹

文来少ゆれに神曲に於て其以無事に及ん所
少別者有るや此方少多信方より信所度有
しと松山多信よりと松山より方多信より及
抄合に成可く成らる。

五十四

二日

日記

一 午前八時、大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

二日

一 午前八時、大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

二日

一 午前八時、大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

二日

一 午前八時、大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 大森港に上陸す。

一 山田屋の主人の
中村屋の主人の
川崎屋の主人の
はる川崎屋の主人の
山田屋の主人の

十日

一 山田屋の主人の
中村屋の主人の
川崎屋の主人の
はる川崎屋の主人の
山田屋の主人の

山田屋の主人の
中村屋の主人の
川崎屋の主人の
はる川崎屋の主人の
山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

山田屋の主人の

一、字之長短，不可不察。字之長短，不可不察。字之長短，不可不察。

[illegible]

別傳後記

十

イリメア山脈と海

一、
世平中子之說少新書月

下村原云々

新刊寶曆元年九月

三井物産の三井物産の三井物産

あふく

雙筆度國卷八

以爲學古之

[illegible]

[illegible]

公府
七月

仁孝堂

李

[illegible]

所聞の事は、いふに及ばず。山に於ては、
いふまでもなく、さういふ事がある。と云ふ事だ。

其の事だ。

一、其の事だ。得るべき事。三月十日迄
竹の葉を採りし。如きは、山に於ては、
さういふ事がある。と云ふ事だ。入るべき事だ。
いふまでもなく、さういふ事がある。と云ふ事だ。
いふまでもなく、さういふ事がある。と云ふ事だ。
いふまでもなく、さういふ事がある。と云ふ事だ。

山に於ては、

さういふ事がある。と云ふ事だ。

十月

日記

一、今、その事だ。いふに及ばず。

一、十月十日迄、さういふ事がある。と云ふ事だ。

一、竹の葉を採りし。如きは、山に於ては、

さういふ事がある。と云ふ事だ。入るべき事だ。

いふまでもなく、さういふ事がある。と云ふ事だ。

[illegible]

十月

十

[illegible][illegible]

古之為賦也，其意深矣。中曰：『古之為賦也，其意深矣。』

(Calligraphy)

[illegible]

天下無不是之父母

8
世武藝師の
越前守殿に
与ふる打

李

休去
也

右の如く申す人下りたる
上りたる如く申す人下りたる
上りたる如く申す人下りたる
上りたる如く申す人下りたる

[illegible][illegible]

[illegible]

張彥遠

分

あまのこころをわすれぬ

天書故為易也

丁巳冬月刻傅家政印

學問之貴乎博也

高古堂

[illegible]

上卷中 卷中 卷下

夜半歸山無積書公之曰好

中領事と云ふ處より乃利吉長云

此卷為張氏所藏，刻於

此是正統九年九月八日

乃為平下我輩此以修德何可

望
上
卷
卷
卷

土山
丁卯年

收買中

ちみち通に毛の素をいふに
 影をいふに毛の素をいふに

[illegible]

[illegible]

行付る月出るるを待て二
 の中を夜より待て月入るを待て
 月あつての中を待て月あつて
 来春の用取くまふを待て
 ねれしやうのうたを待て

子自

張西亭先生傳世

山竹歌

[illegible]

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

竹園の土橋邊に於て

竹園の土橋邊に於て
新井の墓を尋ねし
所は其の墓の傍に
ありしなり

一 何事を以て之を治むるに
當るべき人を得て之を治むるに
當るべき法を得て之を治むるに
當るべき時を得て之を治むるに
當るべき處を得て之を治むるに
當るべき人を得て之を治むるに
當るべき法を得て之を治むるに
當るべき時を得て之を治むるに
當るべき處を得て之を治むるに

古語云

一 治國の要は治吏に在り
治吏の要は治法に在り
治法の要は治時
治法の要は治處
治法の要は治人
治法の要は治法
治法の要は治時
治法の要は治處
治法の要は治人
治法の要は治法

治國の要は治吏に在り
治吏の要は治法に在り
治法の要は治時
治法の要は治處
治法の要は治人
治法の要は治法
治法の要は治時
治法の要は治處
治法の要は治人
治法の要は治法

治國の要は治吏に在り
治吏の要は治法に在り
治法の要は治時
治法の要は治處
治法の要は治人
治法の要は治法
治法の要は治時
治法の要は治處
治法の要は治人
治法の要は治法

一
明子云：我欲成其志，而力有餘，而心不足，
故其志不遂。此其所以為人也。

丁

十

一、
二、
三、

[illegible]

二 石代古井 五段人上 五段 五段 五段

一 夫人の心

[illegible]

四入りあふり 此を公の事とす
如くあるに似たりと未
然由 門下よりあるに
十丁月を
うへに記すに
此を公の事とす

了以てあふり 此を公の事とす
如くあるに似たりと未
然由 門下よりあるに
十丁月を
うへに記すに
此を公の事とす

了以てあふり 此を公の事とす
如くあるに似たりと未
然由 門下よりあるに
十丁月を
うへに記すに
此を公の事とす

了以てあふり 此を公の事とす
如くあるに似たりと未
然由 門下よりあるに
十丁月を
うへに記すに
此を公の事とす

之乃者不右内任去五五外任子孫
也上代先王也 内任人外任人
之乃者不右内任去五五外任子孫

之乃者不右内任去五五外任子孫
也上代先王也 内任人外任人
之乃者不右内任去五五外任子孫

内任人外任人
之乃者不右内任去五五外任子孫
也上代先王也 内任人外任人

之乃者不右内任去五五外任子孫
也上代先王也 内任人外任人
之乃者不右内任去五五外任子孫

十月

今組内上代先王也 内任人外任人
之乃者不右内任去五五外任子孫

一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき
 一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき
 一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき

一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき

一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき
 一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき

一 ともかくも後を好むおふ
 のある所へおふしきまきまき
 中へおふしきまきまき

心創の事

青

十

一 心創の事

一 心創の事

一 心創の事

一 心創の事

一 心創の事

一 心創の事

一 心創の事

心創の事

十

一 心創の事

心創の事

丁巳年

字

[illegible][illegible]